

— 特 許 記 事 —

最近の製鉄鋼界に於ける発明

- 公告番号 発明の名称 (発明者) 出願人
特許出願公告 (昭和 32—6—14)
- 昭 32—3707 鋳鉄にチタン、バナジン、ジルコニウムを添加する方法 (的場源二) 小川正夫
鋳鉄状態で $C\% + Si\% = 4.5\%$ 以上の鉄鉄に酸化チタン、酸化バナジン、酸化ジルコニウムの1種または1種以上に酸化鉄を混合した粉末あるいはこれらを含有了した鋳石粉末にこれら酸化物を還元するに要する量のアルミニウム、シリコン、カルシウムシリサイドの非炭素質還元剤の粉末を1種または1種以上混合したものを1350~1450°Cの鋳鉄の表面に添加する方法。
- 昭 32—3708 鋳造用金型に内張り砂壁を形成する方法 (小林義彦) K.K. 栗本鉄工所
適温に予熱して定置した金型内に結束用樹脂を混入した内張り砂を熱遮断状に容装し、この金型とその内部を昇動させる構体とが形成する間隙内に該砂の適量を注入し、これを金型内面に押付けると共に急速に熱硬化させる方法。
- 昭 32—3709 内燃機関用シリンダーライナー遠心鋳造法 (鈴木一男) ヤンマーディーゼル K.K.
(略)
- 昭 32—3710 防 蝕 法 (大塚英二外2) 東洋高圧工業 K.K.
アンモニアおよび二酸化炭素から尿素を合成する場合、合成装置内にヒドラジンまたはヒドラジン化合物を装入して合成反応をおこなわせる方法。
特許出願公告 (昭和 32—6—18)
- 昭 32—3853 耐 硫 化 鋳 鉄 (篠崎平馬外2) 同 人
主成分として炭素 2.0~3.5%、珪素 0.5~1.3%、アルミニウム 5~10% および銅 0.1~3.0% を含む鋳鉄。
特許出願公告 (昭和 32—6—20)
- 昭 32—3951 磨 鋼 帶 焼 入 装 置 (岸 篤三) 同 人
2個の冷却加圧盤の相接する面の間に鋼帯を導入して焼入をする装置において冷却油を滲出する冷却加圧盤相互の間に軟質物の挾圧板2枚を重ねて挿着しこの挾圧板相互の中間に加熱した被処理鋼帯を導入通過させるようにしたもの。
- 昭 32—3955 コークス処理による鼠鉄の清浄化方法 (千田昭夫) 富士製鉄 K.K.
1~30mmの大きさの高炉用コークス層中に鋳鉄を通過させる方法。
- 昭 32—3956 ロール鋳造法 (古川松五郎) 同 人
(略)
特許出願公告 (昭和 32—6—28)
- 昭 32—4301 水冷式鋳鉄炉 (ウイリアム・エイチ・ムーア) ミーハナイト・メタル・コーポレーション (米)
熔鉄炉の内張りに水冷式金属板を設けその作動面に $1/16'' \sim 2\frac{1}{2}''$ の厚さの断熱耐火材を適用し、この内張りをした金属板の熱伝導率を前記金属板だけの熱伝導率の $1/20 \sim 1/30$ に低下させるようにしたもの。
- 昭 32—4304 超高抗張力不感磁製鋼 (石原善雄外1) 日本特殊鋼 K.K.
炭素 0.40~0.60%、珪素 1.0~3.0%、マンガン 0.8~2.0%、クロム 14.0~17.0%、ニッケル 8.0~12.0%、タングステン 1.0~3.0%、残部燐、硫黄その他若干の不純物を含む鉄。